

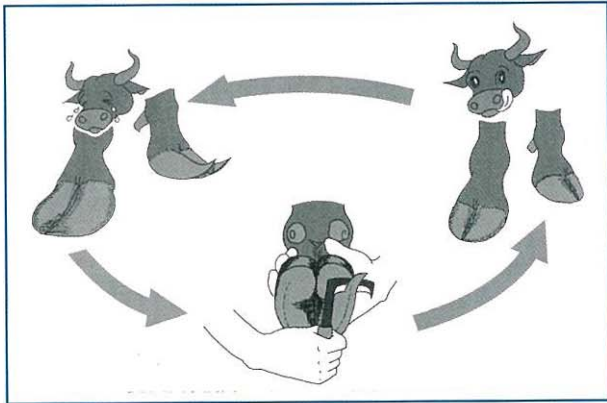
削蹄は三文の得

【知っていますか?】

あなたの大切な牛たちを脅かすのは口蹄疫などの伝染病、あるいは乳房炎や繁殖障害などの病気だけではなくありません。蹄病による生産性の低下や牛の廃用も少なくありません。年間平均三十%の牛が運動器疾患を患うと言われています。そしてその運動器疾患のほとんどは蹄病であり、それも約九十%が後肢の蹄に発生しています。あなたの牛は大丈夫ですか？

【蹄は第二の心臓】

心臓から遠く離れた蹄は、どうしても血液の巡りが悪くなりがちです。そこで蹄自体が、歩くたびに負重により伸縮を繰り返して、ポンプの役割を果たし、血液の循環を促進しています。



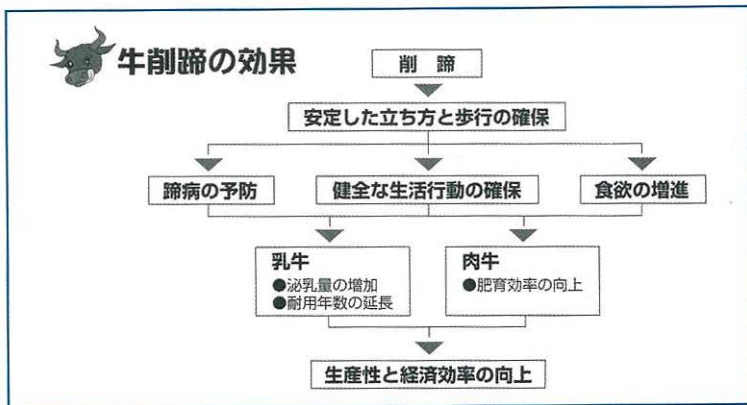
蹄が伸び過ぎたり、変形したり、あるいは牛の運動量が少なくなると、第二の心臓とも言うべきこのポンプ作用も低下します。その結果、蹄の健全性が損なわれて、様々な蹄病やトラブルが発生しやすくなります。

【三文の得】

- ① 伸び過ぎた蹄を削切することで、本来の蹄形を維持し、安定した立ち方と歩き方を改善し、余分なエネルギーの消費を抑えます。
- ② 負重の片寄りを防ぎ、苦痛を取り除き、蹄病の発生を抑えます。
- ③ 蹄のポンプ作用が回復し、蹄内部の血液循環が活性化して丈夫な蹄を作ります。

家も基礎がしっかりしていないとぐらつきます。牛も同様に四百kg以上の体重を支えるので、四本の蹄がしっかりしていないと、どこかに負担がかかり、体型が悪くなったり、ストレスがかかり繁殖障害にも影響がでてきます。

牛は大切な財産です。今一度、我が家の牛の蹄を見てみましょう。



●削蹄はいつすればいいの？
できれば年二回が理想ですが、最低年一回は実施して下さい。
(分娩一ヶ月前後は除く)

※日本装蹄師会 資料参照